

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 13 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25245048

研究課題名(和文) 19世紀アジア世界における開発と経済発展 グローバルヒストリーの観点から

研究課題名(英文) Economic Development of Asia in the 19th century----From the Perspectives of Global History

研究代表者

秋田 茂 (Akita, Shigeru)

大阪大学・文学研究科・教授

研究者番号：10175789

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 27,100,000円

研究成果の概要(和文)：(1)19世紀後半におけるアジアの経済発展の実態とそれを可能にした諸要因を、(a)市場の二重構造化と工業化、(b)農業開発と小農・商業資本の役割、以上2点から考察し、アジア側の「主体性」を解明した。

(2)工業化の端緒に関して、英領インドにおいては中国向け綿糸輸出を開拓したボンベイ商人の役割、中国では洋務運動期の造船業を嚆矢とする機械工業の発展の重要性を明らかにした。

(3)農業開発に関して、英領インド、蘭領東インド外島部、タイのデルタ開発、ロシア極東部を相互に比較し、従来の欧米資本のプランテーション経営とは異なる、アジア現地人・現地資本による広域の地域市場向け生産の拡大の実態を解明した。

研究成果の概要(英文)：(1) This joint research reconsidered economic development of Asian regions in the latter-half of the 19th century, and the factors and causes of their development, paying attention to two aspects: (a) Double structure of Asian markets and origins of industrialization; (b) Agricultural development led by local peasants and Asian merchants and money-lenders.

(2) As for the aspect (a), we revealed the active roles played by Bombay merchants for the Indian cotton-yarn to China, and the important pioneering development of Shanghai shipbuilding industry and its related machine-industries at the times of Westernizing Movement.

(3) As for (b), we made comparative studies of several cases: British India and Chettiyar merchant, Outer-island of Dutch East Indies and local peasant, Chaophraya Delta in Thailand and rice export, Russian Far East and Asian migrants from China and Korea. Through these comparative perspectives, we can identify the leading roles of Asian merchants and peasants.

研究分野：グローバルヒストリー

キーワード：経済開発 工業化 農業開発 19世紀論 グローバル経済史 アジアの主体性 アジア商人 アジア間貿易

1. 研究開始当初の背景

世界史における19世紀解釈が、欧米中心の歴史像であったことは、E.J.ホブズボームの「長期の19世紀」研究や、J.オスターハムメルの大著 *Die Verwandlung der Welt* (C.H.Beck, 2009) に示された通りである。我々が行ってきた本研究に先行する二つの共同研究では、従来の欧米中心の近現代世界史像に疑問をつきつけ、非ヨーロッパ世界の中でもきわめてユニークで独自の発展を遂げたアジア世界から、グローバルヒストリーを再考する必要があることを示した。

しかし、ヨーロッパが優位に立ったとされる「19世紀的世界」の根本的な見直し、近世から現代にいたる時間軸の中で、継続的に見られた「アジアの相対的自立性」が、なぜ可能になり、その自立性が現代のアジア世界にいかなる影響を及ぼしているのか、歴史的観点から考察する課題を残すことになった。今回の研究は、その残された課題に挑戦した。

2. 研究の目的

本研究では、検討の時期を19世紀から20世紀初頭のほぼ1世紀に設定し、グローバルヒストリーにおけるアジア世界の独自性を抽出した。具体的な検討課題としては、以下の3点である。

(1) アジアにおける生産と市場の二重構造化と工業化

第一に、生産と消費市場の「二重構造化」と、欧米資本や製品との「共存」、あるいは「競存」である。綿製品で見れば、高番手・高品質・高価格のイギリス製品に対して、日本・英領インド・中国では、それより安価で低品質であるが巨大な需要が見込めるアジア市場向け綿製品の生産を展開・拡大し、激しい「アジア間競争」を展開した。他の消費財においても、高級品と普及品との生産・市場の分化は存在し、そこで発展した二重構造化が、第二次大戦後のアジア経済発展の基盤となったと考えられるが、本研究ではこのような構造の生成と展開の過程を究明する。

(2) 小農生産と商人資本が結合した農業開発の展開

第二は、欧米資本による茶・砂糖などプランテーション型の第一次産品生産とは異なるタイプの農業開発の進展である。英領インドでは、人口増大と小農生産の拡大により「土地の希少化」が生じ、19世紀後半には価格上昇と商人層による金融によって土地市場が成立した。他方、東南アジアでも、メコン、チャオプラヤ、イラワディなどのデルタ地帯での水田開発(コメ)で、小農の発展が見られた。また、マレー半島における天然ゴム開発も、欧米のプランテーションの開発から小農による生産拡大がみられた。これらの農業開発は、域内外からの中国系・インド系移民の流入(ヒトの移動)と関連しながら進

んだのであり、本研究では、移民・農業開発・流通・金融の相互関連性を解明する。

(3) 経済ナショナリズムと国際公共財の利用

第三は、アジア現地で勃興したナショナリズムと19世紀のヘゲモニー国家イギリスが提供した「国際公共財」の関連性である。一国史的な枠組みで論じられた従来の研究では、アジアのナショナリズムと帝国秩序は二個対立的に捉えられてきた。本研究では、自由貿易体制や国際決済通貨としてのポンド・米ドルの公共財的機能を、アジア現地社会のエリート層は、いかに巧みに活用したのかに焦点を当て、アジアの経済ナショナリズムと開発、工業化との関連性を考察する。

3. 研究の方法

本研究では、第一線で活躍するグローバルヒストリー研究者を中心に、従来の6年半で構築してきた海外研究ネットワークを駆使して、実証的なデータ分析に基づくアジア・日本からの国際的情報発信をめざして、以下の4点を重視する共同研究を組織した：

19世紀アジアの経済発展を検証しうる統計データの収集と整理、WEBによる公開。

研究分担者を中心とする年間3回の定例研究会(2日間)の開催。必要に応じて、定例研究会では、海外の主要研究者を招聘して、ワークショップ形式で集中的議論を行う。

国際学会のパネル公募に積極的に応募し、海外の学界で研究成果の情報発信を行う。

研究面だけでなく、グローバルヒストリー研究に興味・関心を持つ若手研究者、院生クラスが参加できるオープンセミナーを、定例研究会とは別に開催し、広報活動を強化した。

4. 研究成果

本研究では当初19世紀全般の再検討を試みたが、第一次史料や統計類の残存状況、各地のアーカイブや図書館の開放性(閲覧制限)などを考慮して、最終的に、考察の時期を、19世紀半ば(1850-60年代)から、第一次大戦期までの「長期の19世紀」後半に限定せざるをえなかった。第一次史料にもとづいたグローバルヒストリー研究を模索・実践する本研究の、史料上の課題が明らかになった。しかし、19世紀後半から19-20世紀転換期に考察を絞り込むことで、当初掲げた課題に関して、以下のような成果を挙げる事ができた：

(1) アジアにおける生産と市場の二重構造化と工業化

第一のテーマについては、世紀転換期に急速に伸びた英領インドから中国への綿糸輸

出、その基盤となったボンベイの植民地工業化、担い手としての現地資本家、とりわけタタ商会に代表された商人層の役割と通商ネットワークの独自性、それを可能にした、アメリカ南北戦争以降のグローバル化の進展と「アジア間貿易」の形成・発展の独自性を明らかにした。

アジア間貿易の発展を考察するには、モノを運ぶ手段となった海運・造船業の確立が不可欠である。本研究では、二つの対照的事例として、洋務運動期中国・上海における造船業の誕生と現地資本や現地人技術者の役割、蘭領東インドにおけるオランダ系海運会社の展開を考察した。中国の民族資本による造船業創設の過程でも、イギリスが提供する公共財（港湾施設・技術教育など）が大いに活用された。他方、蘭領東インドでは、アジア諸地域向け物資の輸送に中小規模のアジア系商人の船舶（ジャンクや小型汽船）が活用された実態が明らかになった。

アジアで工業化を進める上で、エネルギー源としての石炭の供給も必要な課題であった。本研究では、アジア石炭市場をめぐる英国炭（カージフ炭）、インド炭、日本炭、オーストラリア炭の競合と補完関係を明らかにした。

(2)小農生産と商人資本が結合した農業開発の展開

第二のテーマに関して、英領インド・海峡植民地、蘭領東インド外島部、タイのチャオプラヤ・デルタ、仏領ベトナム東北部山岳地域、ロシア帝国極東地方、それぞれの地域における市場向け農産物（棉花・コーヒー・コブラ・天然ゴム・米・シナモン・小麦等）生産を事例に、従来の欧米資本によるプランテーション経営とは異なる、アジア現地商人・現地資本による生産の拡大を比較検討した。

その結果、19世紀後半の英領インド、特に南インド地域では、人口が増加するとともに、それに呼応して、小農や現地人金融業者チェチヤールを主体とする、耕作地の拡大と着実な農業生産の拡張が見られた。

同時期の蘭領東インドの外島部セレベス島においても、現地小農を主体にコーヒー・コブラ栽培が広がり、その販路は華商・華僑を通じて中国にも伸びていた。また、タイのデルタ地域では、華商による水田開発が進むと共に、不平等条約体制の下でも、外国人（外国資本）による土地所有権を事実上「制限」する制度改革が行われていた。華商の通商ネットワークに依存した商品生産は、歴史的つながりを反映して、ベトナム東北部の山岳地域でも見られた。

他方、東北アジアに隣接するロシア帝国極東地方では、現地当局によるロシア系移民優遇政策がとられたが、農場の労働力としては、帝国国境を超えて流入した、安価な中国人・朝鮮人農業労働者や小農に依存せざるをえなかった。帝国経営も、そうした現地の事情

を考慮して、自由通商・自由貿易と通商規制・保護貿易の間で揺れ動いたのである。

(3)経済ナショナリズムと国際公共財の利用

第三の共通テーマである、アジア現地側による国際公共財の主体的利用と経済発展の連関性、経済ナショナリズムの勃興との関係については、十分に論じることができなかった。限定的であるが、特に第一のテーマに関して、イギリス帝国が推進した自由貿易体制と現地のアジア間貿易の発展との相互連関性、インド棉・綿糸の東アジア向け輸出とイギリス帝国の海運会社 P&O の独占体制、それへのアジア側からの挑戦、さらに、英領海峡植民地やビルマに進出したチェチヤールとイギリス帝国内部の自由移動（帝国臣民の権利の保証）との連関性などを考察した。

本研究の成果は、2018年3月末に、京都のミネルヴァ書房より、2冊目の研究論文集『「大分岐」を超えて アジアから見た19世紀論』として刊行の予定で準備を進めている。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計24件）

杉山伸也「日本の産業化と動力・エネルギーの転換」『社会経済史学』82-2 (2016), pp.3-36 査読有

Osamu Saito, 'Growth and inequality in the Great and Little Divergence debate', *Economic History Review*, 68-2 (2015), pp.399-419, DOI:10.1111/her.12071 査読有

Tsukasa Mizushima, 'Did India experience Rapid Population Growth in the Pre-Census Period?: A Village-level Study from South India', *International Journal of South Asian Studies*, 6(2014), pp.13-43 査読有

太田淳「グローバル・ヒストリーと東南アジア史」『地域研究』14-1(2014), pp.160-181 査読有

Ryoyo Shimada, 'The Long-term Pattern of Maritime Trade in Java from the late eighteenth century to the mid-nineteenth century', *South Asian Studies*, 2-3(2013), pp.475-497 査読有

〔学会発表〕（計51件）

Shigeru Akita, 'Indian industrialization and East Asia at the turn of the 19th-20th centuries: N.Y.K. Bombay Line, J.N.G.Tata and economic nationalism', The 8th Indo-Japanese Workshop: Reconsideration of the 19th century from Asian Perspectives, 2016/1/08, New Delhi (India).

Atsushi Ota, 'Transformation of Early-modern Society in Southeast Asia: Global Economy and a local Society in Java, Special Lecture at Seoul National University, 2015/11/12, Seoul (Korea).

Tsukasa Mizushima, 'Explaining Population Density in Early Modern India', XVIIth World Economic History Conference, 2015/8/04, 京都国際会館.

Toshiyuki Miyata, 'Land Use in Chaophraya Delta and Siamese Rice Export Development: The case of Siamese Garden Rice', 3rd Congress of the Asian Association of World Historians, 2015/5/30, Singapore.

杉山伸也「産業化とエネルギー」社会経済史学会第83回全国大会特別講演, 2014/5/24, 同志社大学(京都).

Yukimura Sakon, 'Russian and Asian Immigrants in the Russian Far East: 1860-1914', European Social Science History Conference, 2014/4/26, Vienna (Austria).

〔図書〕(計17件)

水島司・久保亨・島田竜登・加藤博編『アジア経済史入門』名古屋大学出版会, 2016, 377p.

Tsukasa Mizushima, George Souza and Dennis Flynn (eds.), Place, Space, Time and Political Economic Development of Asia over the Long Eighteenth Century (Brill, 2015), 260p.

水島司編『激動のインド4 農業と農村』日本経済評論社, 2014, 464p.

杉山伸也『グローバル経済史入門』岩波書店, 2014, 200p.

秋田茂編『アジアから見たグローバルヒストリー』ミネルヴァ書房, 2013, 346p.

太田淳『近世東南アジア世界の変容 グローバル経済とジャワ島地域社会』名古屋大学出版会, 2014, 505p.

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.globalhistoryonline.com/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

秋田 茂 (AKITA, Shigeru)

大阪大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号: 10175789

(2) 研究分担者

水島 司 (MIZUSHIMA, Tsukasa)

東京大学・大学院人文社会系研究科・教授

研究者番号: 70126283

斎藤 修 (Saito, Osamu)

一橋大学・経済研究所・名誉教授

研究者番号: 40051867

杉山 伸也 (SUGIYAMA, Shinya)

慶応大学・大学院経済学研究科・名誉教授

研究者番号: 30171185

久保 亨 (KUBO, Toru)

信州大学・学術研究院人文科学系・教授

研究者番号: 10143520

宮田敏之 (MIYATA, Toshiyuki)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・

教授

研究者番号: 70309516

太田 淳 (OTA, Atsushi)

慶応大学・大学院経済学研究科・准教授

研究者番号: 50634375

島田竜登 (SHIMADA, Ryuto)

東京大学・大学院人文社会系研究科・准教授

研究者番号: 80435106

(3) 連携研究者

無し

(4) 研究協力者

左近 幸村 (SAKON, Yukimura)

新潟大学・研究推進機構超域学術院・准教授

岡田 雅志 (OKADA, Masashi)

大阪大学・外国語学部・非常勤講師

George Bryan Souza

University of Texas at San Antonio (US),

Invited Associate Professor

Aditya Mukherjee

Jawaharlal Nehru Institute for Advanced

Studies, Jawaharlal Nehru University

(India), Professor